

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和島東高等学校 全日制・定時制
学校番号 (43)

評価実施日	平成31年2月25日(金)		
委員	氏名	所属等	備考
	黒澤 寿美	学校評議員、環太平洋大学短期大学部 副学長	
	堀口 昌彦	学校評議員、宇和島警察署 生活安全課長	
	玉井 知子	学校評議員、愛媛新聞社 南予支社長	
	久米 良樹	学校評議員、伊予銀行 宇和島支店長	
	森藤 博明	学校評議員、三間町兼近自治会 役員	
	田中 繁幸	ジブラルタ生命保険株式会社 営業次長	
	石止伊佐美	宇和島市立城北中学校長	
	兵頭 朗生	P T A会長	
	芳谷 圭一	教育振興会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 生徒の自己実現</p> <p>ア 教育方針や目標は毎年、熟慮されており地域を代表する高校として共感できるものが掲げられている。この素晴らしい内容を達成し、たくましく生きる力を身に付け、社会に貢献できる人間として育ち、校歌にも示されているとおり将来は「国の礎」として、地域や日本を担う存在となつてほしい。</p> <p>イ 進路実現については、結果がすべて出そろっていない時期ではあるが、授業満足度も高く、総じて良好である。ただ、理数教育・産業教育の充実についてC評価となつてはいるが、目標の設定に問題があるのか、教職員や生徒のモチベーションに原因があるのかなどの分析が必要かと思われる。もし、SSHが生徒や教職員から負担と捉えているならば、その必要性を再認識するとともに共通理解を図るなど何らかの対策が必要ではないか。</p> <p>ウ キャリア教育においては生徒が、幅広く進路選択ができるよう今後も様々な情報提供を続けて欲しい。また、地元で活躍されている企業家の方々から講演をいただく機会を増やすなどしてキャリア教育の更なる充実に役立ててはどうか。</p> <p>(2) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 端正な身だしなみで、気持ちのよい挨拶ができている学校は、生徒の表情も明るく教職員にも活気がある。本校は部活動が活発で、「質の高い文武両道」を目標に掲げており、部活動に参加している生徒が挨拶運動など様々な場面でリーダーシップを発揮することで、学校をより活性化させる役割を担うこともできるのではないかと考える。</p> <p>イ 挨拶や身だしなみ等、日頃から生徒を町中で見ているものとしては素晴らしいと感じている。ただ、1年生の2学期からの皆勤率が20%低下するなど今後の課題も残されており、対策を講じられたい。</p>	<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 生徒の自己実現</p> <p>ア 教育方針の決定に当たり、教職員全員を年齢、役職、教科等が異なるグループ(8グループ)をつくり、特に、育てたい生徒像について議論をした。更に、中堅・若手の教職員が各グループのリーダーとなり、集約を図った。教職員の意見を教育目標に反映させることにした。</p> <p>イ SSH事業は第2期の1年目(6年目)に入った。ルーブリック評価の改善で、それぞれの活動に対して、目指すべき点が明確化してきた。生徒の自己評価は学年を追うごとに高くなっているため、モチベーションは決して低くはないように思われる。教員においても、全校体制での取り組みが軌道に乗っており、一人ひとりの目指すものが高くなっていることも影響しており、さらなる高みを目指して、職員研修を充実させたい。</p> <p>ウ 高校卒業者職場定着促進事業で実施されている「新規卒業者との集い」へ積極的に参加し、地元就業者との座談会を開催したい。また、地元企業との交流を深め、情報交換を盛んにしていきたい。</p> <p>(2) 心身健康で豊かな心</p> <p>ア 各課と連携をとりながら、部活動生徒に対する「部員指導」等を充実させ、身だしなみを整えることや、気持ちの良い挨拶をすることの意義を再認識させるとともに、これまで以上に様々な場面でリーダーシップを発揮させるようにしていきたい。</p> <p>イ 2学期はじめのホームルーム担任による個人面談と個々の生徒に対する教職員間での情報共有や支援体制を更に充実させることで対応したい。基本的な生活習慣の定着を図る上で保護者の協力は不可欠であり、家庭との連携を密にしたい。</p>

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>(3) 魅力ある特別活動</p> <p>ア 特別活動は学校をアピールできるチャンスである。魅力ある特別活動の評価が高いことは大変好ましい。今年度も体育祭を見学させていただいたが、私同様に保護者の方からも年々良くなっていると好評であった。特にグラウンド内は生徒主体でキビキビと活発に運営されており、今後も他校の見本となる体育祭であってほしい。</p> <p>イ 部活動の活躍は大変素晴らしく、本校の活躍と知名度を上げる絶好の手段となっている。「質の高い文武両道」を目標に掲げる本校において、限られた活動時間で大きな成果を上げられていることを大いに評価したい。地域の中学生達の目標であり「この高校でやってみたい」と思える部活動経営を今後も続けてほしい。</p> <p>2 定時制について</p> <p>授業満足度や出席率、県定通総体参加率等多くの目標をほぼ達成できている。開設以来の長年の努力が花開いたという印象である。先生方が一丸となり、生徒たちに真摯に向き合い、きめ細かく接していることがよく理解でき、高く評価できる。</p> <p>3 説明・公表について</p> <p>保護者アンケートの回収率について言及されているが生徒経由で渡されているのなら、生徒から保護者に渡っていない可能性も考えられる。</p> <p>4 学校運営について</p> <p>一つの目標を達成するためには、管理職や担当者は嫌われることを覚悟して根気強く何度も何度も生徒や教職員に啓発する必要がある。また、共通理解・共通認識を得るためには風通しが良く職場が楽しいと思われる空気を醸成する必要がある。そのためには気軽に教頭や校長にも意見が言える職場環境が大切だと考える。</p>	<p>(3) 魅力ある特別活動</p> <p>ア 実施時期や内容等の学校行事計画については今後も検討を続ける必要がある。今年度も短い準備期間での実施ではあったが、生徒には限られた時間を有効活用することを意識させるとともに、主体的・自主的に活動できるよう働きかけることで、全体として活気ある行事運営を行うことができた。今後も魅力ある特別活動を実施したい。</p> <p>イ 団体競技で全国大会出場を果たしたサッカー部をはじめ、各部活動はそれぞれ成果を上げ、地域の方々にも明るい話題を届けることができた。また、地域の中学生達にも本校の魅力の一部を伝えることができたのではないかと考える。引き続き、更なる高みをめざして各部が切磋琢磨し、活躍できるようにサポートしていきたい。</p> <p>2 定時制について</p> <p>昨年度、開設10周年という節目の年を終え、新たな気持ちでスタートした11年目であるが、特別活動・生徒指導・進路指導等において、職員全員がきめ細かく生徒に寄り添うことができたことが評価につながったように思う。来年度は、A評価の項目についてはハードルを上げB評価やC評価の項目については、A評価が達成できなかった要因を分析し、生徒の育成につなげていきたい。特に生徒生活体験発表については、指導法や生徒の意欲を引き出す工夫を検討していきたい。</p> <p>3 説明・公表について</p> <p>アンケート回収の呼びかけを更に徹底するとともに、配布時期を早めたい。また、回収時の個別封筒を使用することでアンケートを提出しやすいものにした。また、学校からの配布物が、保護者に届いているかをアンケート項目に追加して、検証していきたい。</p> <p>4 学校運営について</p> <p>教職員を8班のグループに分けて、ディプロマ・ポリシー(育てたい人材像)として身に付けるべき資質・能力について検討した。各班からの意見を基に、教職員の代表者と管理職で協議して次年度へ向けて6つの項目を設定した。教職員一人一人がより高い意識をもって生徒の指導に当たりたい。</p> <p>今後も校長のリーダーシップのもと、本校のディプロマ・ポリシーに沿うような生徒の育成を目指し、より一層教職員の共通理解を図っていくとともに、風通しのよい職場づくりに努めていきたい。</p>